

前月比
人 口 77,704-116
男 37,336
女 40,468
世帯数 19,376 +57

おおだて

編集と発行—大 館 市 役 所
発行年月日—昭和45年6月1日
発行日—毎 月 1 日
定価 1 部 5 円

昭和43年3月1日第3種郵便物認可

<市立総合病院改築>

6月6日に喜びの竣工式

市民の病院にふさわしい数々の医療器具を完備

市民のための病院……市立総合病院の改築工事が完成し、昨年の10月20日から新しい病院で診療を始めていましたが、このほど、病院前の整地工事も終了したので6月6日、晴れの竣工式を行なうことになりました。

新しい病院は、地下1階、地上6階の近代建築の粋を十分とり入れたもので、改築と同時に購入したガンの治療器「回転照射コバルト60遠隔治療装置」など152品目の近代医療器具とあわせ、名実ともに市民の総合病院にふさわしい病院として生れ変わりました。

新しい病院の各階ごとのご案内は、44年11月1日発行の本紙でお伝えしてありますので、今号では省略させていただきますが、完成の喜びにあふれるこの機会に90年の歴史の中で、迂余曲折しながらも、今日まで成長してきた本病院のあゆみや新鋭医療器具などを紹介し新しい病院に対する、市民の皆さまのご理解と今後のご利用、ご協力を得たいと思います。



↓ 手術室の一部



↑ X線テレビ装置

病院のあゆみ

「一人生命重全地球」を至上精神として、明治12年当時の先覚者、大館町刀主家、木村兼斎、川瀬玄探ほか数氏の主唱により創立された私立大館病院が、当病院のはじめであります。

そのご、明治15年12月には東大館町外49カ町村の連合による公立大館病院が成立し、以来、幾星霜、幾多の変遷を経てたえない進歩と発展を続け、東北でも屈指の大病院になりました。

ところが、昭和28年4月、附近からの火災により不幸にもその全施設を焼失したが、いち早く復興計画が樹てられ、大館市字三の丸から現在地の豊町3番1号に移転され、驚異的な速度で建設が進められました。

火災復興が終わり、陣容が整った昭和35年～40年ごろの公立大館病院の許可病床数は、一般が219床、結核303床、精神180床、急床28床の合計730床でありました。

そして、昭和41年2月12日、公立大館病院組合（大館市、田代町、花矢町の一部事務組合）が解散され、大館市がその所有する財産の全部と債権、債務その他一切の事務を承継し、地域医療確保のため、昭和41年2月13日に大館市立総合病院が開設されたのです。

この開設以来、各界のご協力を得て病院の運営に当たってきたところでありますが、当時の病院建物の大部分は木造モルタル塗であったため、ようやく老 化が目立ち面積もせまくなってきました。

さらに、医療機械等も病院の近代化にそい更新、充実する必要にせまれ、ここにおいて大きく脱皮するため42年度より45年度までの継続事業として、地下1階地上6階の病院改築が進められ、このたび完成の喜びに浴したのであります。

峠の家 臨時オープン

市民の保養所「峠の家」が6月から臨時オープンします。ことは、この峠の家にプールや遊園地をつくって、市内最大の市民保養所にする計画をたてていますが、峠の家のものが使用できるようになったことと、市民から使用させて欲しいという要望がありこの要望に応え、今回、臨時オープンにふみきました。使用許可要綱はつぎのとおりですので、希望者はお申し込みください。

<臨時使用許可要綱>

- (1)峠の家が、本格開業するまでの間、暫定的に使用を許可し、本施設を活用させるものとします。
- (2)許可の範囲
 - (イ)暫定的な使用の許可であるため、公益または公共的団体等の会議あるいは研修に限り使用許可します。
 - (ロ)一般個人の利用は本開業まで許可しません。

(3)使用時間 午前9時～17時

(4)貸し出し器具

各室備付のテーブル、茶道具及び灰皿、黒板、掃除道具、座布団、食堂の椅子テーブル

(5)使用準備および後仕末

(イ)使用者は、使用前の準備、使用後の整理清掃を行なってください。

(ロ)使用にあたっては、管理人の指示に従ってください。

(6)申込先——厚生課に使用当日の3日前まで。電話でも結構です

(7)受付開始——6月から

(8)定 員——広間50人、和室20人

(参考)峠の家の内部設備

40帖の集会室1室・食堂兼娯楽室1室・畳敷2段

ベット2室・10帖和室2室・男子浴室・女子浴室